

練馬子ども議会報告書



令和7年度（2025年度）

練馬区

ごあいさつ

練馬区教育委員会

教育長 三浦 康彰



練馬区では、中学生が自由に意見を表明する場を設けるとともに、区政や区議会、選挙の仕組み、練馬区についての理解を深めることを目的として、毎年夏に「練馬子ども議会」を実施しています。

今年度は、区立中学校33校、都立中学校1校から各1名選出された34名の子ども議員の皆さんから「いじめの早期発見」、「練馬の魅力」、「環境」、「防災」について、区への提言発表がありました。

この提言は、子ども議員の皆さんが約1か月にわたって議論や調査を行い、グループ相互に意見交換を行ってまとめ上げた成果です。また、最終日に生涯学習センターで行われた子ども提言発表会においては、多くの傍聴者の前でスライドを用いた発表を行うなど、貴重な体験ができたと思います。

子ども議員の皆さんは、この経験を生かし、普段から物事に問題意識を持ち、具体的に考える習慣を身に付け、自分達で解決策を見つける力を磨いていただきたいと思います。

結びにあたり、中学生の皆さんがこれからの練馬区について共に築いていくことを願うとともに、皆さんの更なる成長と今後の活躍を大いに期待しています。

目 次

[1]	令和7年度練馬子ども議会の開催について	2
[2]	令和7年度練馬子ども議会子ども議員名簿	4
[3]	練馬子ども議会が開催されるまでの経緯	5
[4]	グループ紹介	11
	1. May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～	12
	2. The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～	14
	3. Green-saving, superheroes 「みどりを救う」	16
	4. 未来に届け ～みんなの笑顔守り隊～	18
[5]	練馬子ども議会開会宣言	21
[6]	意見交換会	25
[7]	子ども提言発表会	33
	1. 「いじめの原因、理由、早期発見」	36
	May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ	
	2. 「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」	40
	The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～ グループ	
	3. 「練馬の環境を守る」	44
	Green-saving, superheroes 「みどりを救う」グループ	
	4. 「防災～災害時の行動と避難拠点について～」	48
	未来に届け ～みんなの笑顔守り隊～ グループ	
[8]	会議録署名	57
[9]	資料	
	1. 令和7年度練馬子ども議会の提案等に対する区の実施調査票	60
	2. 練馬子ども議会の過去の提案等に対する区の実施調査票	66
	3. 子ども議員へのアンケート集計結果	68

令和7年度練馬子ども議会の開催について

1 目的

(1) 区政に関する意見の聴取

中学生が日頃疑問に思っていること、子ども議員として希望や意見などを表明する場を提供するとともに、区政に反映させる機会とする。

(2) 区政や区議会、選挙の仕組みについての学習

区政や区議会の仕組みを学習するとともに、選挙の仕組みについて理解を深め、区政への関心を高める機会とする。

2 実施内容

(1) 開催期間

ア 学習会 令和7年6月28日（土）～令和7年8月1日（金）【4回】

イ 開会宣言・意見交換会 令和7年8月1日（金）

ウ 子ども提言発表会 令和7年8月7日（木）

(2) 子ども議員

区立中学校および国・都・私立中学校生徒 40名程度

(3) 学習会、意見交換会、子ども提言発表会等

ア 事前学習

タブレットを活用した区政および区議会制度、選挙制度の事前学習

イ 学習会（6月28日、7月22日・25日、8月1日）

地域調査、提言発表等について学習会（4回）を区役所内会議室等で行う。

ウ 開会宣言・意見交換会（8月1日）

議場にて開会宣言を行う。

全員協議会室にて提言（案）を発表し、子ども議員間で意見交換を行う。

エ 子ども提言発表会（8月7日）

生涯学習センターホールにて区に対して提言発表を行う。

オ 報告書

練馬子ども議会の報告書を作成し、区内小中学校等に配布する。

3 子ども議員の推薦・決定および子ども提言発表会の周知

(1) 子ども議員の推薦

区立中学校（全 33 校）、区内の国・都・私立中学校（6 校）に子ども議員の推薦を依頼する。

(2) 子ども議員の決定

区立中学校から 33 名、都立中学校 1 名の推薦があり、合計 34 名の子ども議員が決定する。

子ども議員は、調査、提案したいカテゴリーごとに、1 グループ 8 ～ 9 名で構成する 4 つのグループに分かれる。

所属するグループの決まった子ども議員は、調査、提案したい内容について事前学習を行い、学習シートを提出する。

(3) 子ども提言発表会の周知

区報（7 月 21 日号）、区ホームページ、SNS および教育だより等により周知する。

令和7年度練馬子ども議会子ども議員名簿

グループ名	テーマ	氏 名	ふりがな	中学校名	学年
May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～	いじめの原因、理由、早期発見	津久井 悠也	つくい ゆうや	旭丘中学校	2
		関口 陽南	せきぐち ひなみ	豊玉第二中学校	2
		松井 佳太	まつい けいた	開進第四中学校	2
		池戸 結音	いけど ゆいね	石神井南中学校	2
		鈴木 優奈	すずき ゆうな	南が丘中学校	2
		関根 綾花	せきね あやな	谷原中学校	2
		寺嶋 恵乃	てらしま めぐの	三原台中学校	2
		山口 千愛	やまぐち せな	大泉学園中学校	2
		澁谷 純大	しぶたに じゅんた	八坂中学校	2
The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～	東京といえば練馬区と思ってもらうためには？	戸高 祐哉	とだか ゆうや	開進第二中学校	2
		根本 峻	ねもと しゅん	北町中学校	2
		松田 航大	まつだ こうだい	練馬東中学校	2
		森田 怜	もりた れい	田柄中学校	2
		近藤 ひまり	こんどう ひまり	光が丘第一中学校	2
		李 瑞珍	い そじん	光が丘第三中学校	3
		玉川 愛琉	たまがわ める	石神井西中学校	2
		横田 沙依	よこた さえ	大泉西中学校	2
		加藤 陽翔	かとう はると	大泉北中学校	2
Green-saving, superheros 「みどりを救う」	練馬の環境を守る	高橋 乃愛	たかはし のあ	豊玉中学校	2
		高見 秀明	たかみ ひであき	中村中学校	2
		眞道 はな	しんどう はな	開進第一中学校	2
		宮沢 友里愛	みやざわ ゆりあ	開進第三中学校	2
		秋田 龍音	あきた りゅうと	貫井中学校	2
		中野 幸毅	なかの こうき	豊溪中学校	2
		高橋 佳史	たかはし よしふみ	光が丘第二中学校	2
		三津井 理央	みつい りお	石神井東中学校	2
未来に届け ～みんなの笑顔守り隊～	防災～災害時の行動と避難拠点について～	羽田野 聡良	はたの さら	練馬中学校	2
		杜 美晴	もり みはる	石神井中学校	2
		新井田 涼音	にいだ すずね	上石神井中学校	2
		本田 かほ	ほんだ かほ	大泉中学校	2
		井上 萌衣	いのうえ めい	大泉第二中学校	2
		舟橋 かや乃	ふなはし かやの	小中一貫教育校大泉桜学園	3
		山川 華歩	やまかわ かほ	関中学校	2
		森 咲月	もり さつき	都立大泉高等学校附属中学校	2

練馬子ども議会が開催されるまでの経緯

事前学習

区議会・選挙制度について

タブレットを活用し、区政や区議会の仕組み、選挙権や選挙の種類、投票の方法などを学習しました。

第1回学習会

6月28日(土)

10:00～16:00<練馬区職員研修所>

34名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【開会】

こども家庭部長 関口和幸から子ども議員に激励の挨拶。

【全体会】

自己紹介とアイスブレイク

グループごとに自己紹介とアイスブレイクのミニゲームをしました。

練馬子ども議会について

議論の進行方法や提言発表会のやり方、地域調査のインタビュー内容など子ども議会の具体的な内容について学びました。

グループ別学習会

- ①グループ長と書記を決めました。
- ②事前学習シートを参考に話し合い、提言発表のテーマを決めました。
- ③第2回学習会で行う地域調査の調査場所および調査内容を決めました。



May everyone be smiling
～君のその笑顔をまもり隊～グループ



The charm of Nerima
～広がれ!練馬の魅力たち!～グループ



Green-saving, superheroes
「みどりを救う」グループ



未来に届け
～みんなの笑顔守り隊～グループ

第2回学習会

7月22日(火)

10:00～16:00

31名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【地域調査】

地域の人たちの話を聴く、事前に調査した内容を持ち寄るなど、地域の事象を調査し課題を捉える。

【学習会】

タブレットパソコンを活用し、地域調査で得た情報をまとめ、意見交換や調べ学習を行い、テーマについて深堀していく。

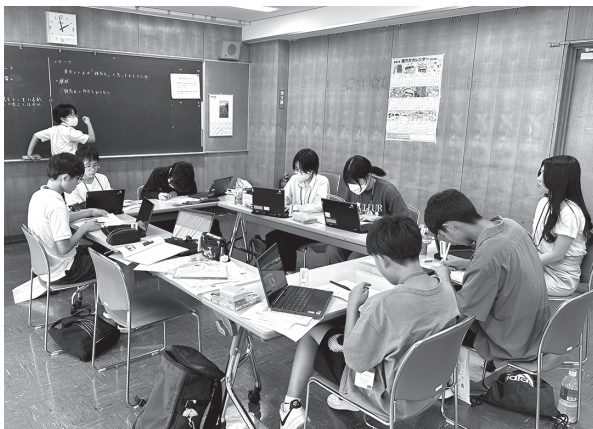
① May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ

いじめの早期発見のための区取り組みやいじめ防止を啓発する取り組みについて調査するため、教育指導課を訪問し、話を聞いてきました。



学習会の様子

② The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～ グループ



学習会の様子

都市農業や観光産業など練馬の魅力を多くの人に知ってもらうための取り組みや区で開催しているイベントなどを調査するため、都市農業課、ねりま観光センターを訪問し、話を聞いてきました。

③ Green-saving superheroes 「みどりを救う」 グループ

練馬区の環境を守るための取り組みを調査するため、清掃リサイクル課、環境課を訪問し、ごみのポイ捨て対策やごみ分別の啓発等について、話を聞いてきました。



学習会の様子

④ 未来に届け ～みんなの笑顔守り隊～ グループ



防災について調査するため、防災学習センターを訪問し、避難拠点の備蓄物資についてや、災害時の行動について話を聞いてきました。

学習会の様子

第3回学習会

7月25日（金）

10:00～16:00＜春日町青少年館＞

32名の子ども議員が出席しました。

（主な実施内容）

【全体会】

議長・会議録署名議員の選出

立候補者を募り、議長・副議長・会議録署名議員を決めました。



議長 宮沢 友里愛さん



副議長 鈴木 優奈さん

【グループ別学習会】

第2回学習会で話し合った内容をまとめ、提言発表の原稿を作成しました。また、発表に使用するスライドの作成など発表に向けた準備を進めました。

第4回学習会

8月1日（金）

9:00～16:00

＜本会議場・全員協議会室・練馬区職員研修所＞

34名の子ども議員が出席しました。

（主な実施内容）

【練馬子ども議会開会宣言】 9:15～9:45



議場で開会宣言し、会議録署名議員の指名、会期・議題を決定しました。

【意見交換会】 10:00～12:00



各グループが提言（案）を発表し、他グループからの質問に答えました。

【グループ別学習会】 13:00～17:00



意見交換会で出た意見を参考にグループで話し合い、発表原稿をブラッシュアップしました。
発表に向けたリハーサルをしました。

子ども提言発表会

8月7日（木）

13:30～15:30＜生涯学習センター＞

34名の子ども議員が出席しました。



生涯学習センターで、区に対してグループで提言発表を行いました。
各グループの発表について教育長から講評を受けました。

※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など68名の方が傍聴しました。

グループ紹介



May everyone be smiling

～君のその笑顔をまもり隊～グループ

「いじめの原因、理由、早期発見」



グループメンバー

津久井 悠也（旭丘中学校） 関口 陽南（豊玉第二中学校）
松井 佳太（開進第四中学校） 池戸 結音（石神井南中学校）
鈴木 優奈（南が丘中学校） 関根 綾花（谷原中学校） 寺嶋 恵乃（三原台中学校）
山口 千愛（大泉学園中学校） 澁谷 純大（八坂中学校）

ファシリテーター

内藤 美穂
（教育振興部学務課特別支援教育係長）
元木 高明
（こども家庭部青少年課育成支援係長）



意見交換会の様子

テーマ：いじめの原因・理由・早期発見

調査内容

いじめ防止の取り組み
(教育指導課)

テーマについての現状

- ・アンケートの実施
- ・相談室でスクールカウンセラーに相談できる。
- ・ポスターと標語（いじめ一掃プロジェクト）
- ・先生の（いじめに関する）研修会がある。
- ・情報モラル講習会
- ・リーフレットの作成
- ・SNS ルールが定められている。

課題・問題点

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・3人グループが2対1になってしまう。 ・個性の違いによるいじめ ・先生に相談しにくい。 ・見て見ぬフリをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ同士の対立 ・いじめが原因で不登校になった人と関わりにくい。 |
|---|--|

解決策の検討

- ・先生と生徒が関わりやすくする。
- ・家庭なども相談しやすい雰囲気をつくる。
- ・相談することを正しいと伝える。
- ・アンケート用紙を常に置いておく。
- ・グループ活動を増やして関わりやすくする。
- ・アンケートのインターネット化

解決策を実現するための方法・手段

- | | |
|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・トーク時間 ・レクリエーション ・先生の意識 | } 先生と生徒の関わり |
| <ul style="list-style-type: none"> ・発表と考える時間をつくる。 ・タブレットのアンケートをつくる。 ・紙のアンケートは無記名にし、常に教室に置く。 | |
| →早期発見をする。 | |

自分たちができること

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒にも元気な挨拶 ・いじめ防止ポスターの作成。 ・不登校の生徒でも通える教室を全学校につくる。 ・レクリエーションの時間をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットのアンケートをつくる。 ・いじめ防止のイベントに積極的に参加する。 |
|--|--|

The charm of Nerima

～広がれ！練馬の魅力たち！～グループ

「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」



グループメンバー

戸高 祐哉（開進第二中学校） 根本 峻（北町中学校） 松田 航大（練馬東中学校）
森田 怜（田柄中学校） 近藤 ひまり（光が丘第一中学校） 李 瑞珍（光が丘第三中学校）
玉川 愛琉（石神井西中学校） 横田 沙依（大泉西中学校） 加藤 陽翔（大泉北中学校）

ファシリテーター

中山 克己
（産業経済部商工観光課商工係長）
黒澤 柚葉
（こども家庭部保育課入園相談係）
醍醐 寛
（こども家庭部青少年課育成支援係）



テーマ：東京といえば「練馬区」と思ってもらうには？

調査内容

- ・区が主催の宿泊学習の企画を行っているのか。
また、補助金が出るのか。（都市農業課）
- ・イベントの来場者数、売上はどれほどか。
- ・区外の人や、外国の方に向けた PR 方法。
- ・観光業に活かしている他の産業や練馬の特色は何か。（練馬区産業振興公社）

テーマについての現状

- ・練馬区内に住んでいる人も練馬区の特色を知らない。
- ・小、中学生向けのイベントはあるが、認知度が低い。
（認知度に地域差がある）
- 周知方法はあるが、情報が届いていない。
- ・取り組みのステップを飛ばしてしまっている。

課題・問題点

（区外だけでなく）区民も知らないことが多い。

解決策の検討

- ・イベント等を知ってもらう。
- ・特産物を使った体験イベントなどを開催する。
- ・学校でチラシを配る。
- ・情報を知った人にどんどん発信してもらう。
- ・興味をもってもらえるような情報を発信する。

解決策を実現するための方法・手段

- ・小、中学校のプログラムに組み込む（区民農業などを使う）
- ・音楽祭などを開く（そこで、特産物を使った食べ物などを配る）
- ・学校で取り入れる（家庭科の朝食づくりなど）
- ・もっと柔らかく、楽しそうなものを作成する。
- ・家のポスト、スマホの広告、児童館など（宣伝をする際よく見る場所）
- ・ターゲットに合わせて工夫する。

自分たちができること

- ・友達に伝える。イベントに行く。
- ・新聞を作成して、掲示する。
- ・学校放送で伝える。

Green-saving, superheroes

「みどりを救う」グループ

「練馬の環境を守る」



グループメンバー

高橋 乃愛（豊玉中学校） 高見 秀明（中村中学校） 眞道 はな（開進第一中学校）
宮沢 友里愛（開進第三中学校） 秋田 龍音（貫井中学校） 中野 幸毅（豊溪中学校）
高橋 佳史（光が丘第二中学校） 三津井 理央（石神井東中学校）

ファシリテーター

長谷川 いずみ
（環境部みどり推進課協働係）
徳重 愛
（環境部みどり推進課保全係）
内田 香子
（福祉部石神井総合福祉事務所保護第二係）
宮崎 裕介
（こども家庭部青少年課育成支援係）



意見まとめの様子

テーマ：練馬の環境を守る

調査内容

- ・小、中学校で授業の一環としての取り組み
- ・ホームページ以外での情報発信
- ・ごみの種類と分別について公共施設にポスターを貼る。・ごみ箱の設置について
- ・分別一覧の紙を各家庭に配布
- ・イベントなどの認知度を上げるための取り組み（環境課・清掃リサイクル課）

テーマについての現状

- ・2011年から2022年までに緑被率2.8%減少
- ・練馬のみどりの紹介（区の取り組み）
- ・区民協働によるみどり活動
- ・緑化に関する助成制度や支援
- ・緑の保全活動・講座、催し物・計画、調査、会議
- ・ハーブテラス・葉っぱい基金・ピリカのアプリを活用した発信・分別一覧表を各家庭に配布

課題・問題点

- ・取り組みの認知度が低いから活動が活かされていない。
- ・主にタバコなどのごみが駅周辺に多い。
- ・ごみ箱の設置が難しい。
- ・区民のごみ分別に対する意識が人それぞれ違う。

解決策の検討

- ①動画やアプリを見てもらう人を増やす。
- ②掲示物を改善する。
- ③みんなの興味を惹くごみ箱をつくる。

解決策を実現するための方法・手段

- ①動画の本数を増やす。
動画の内容を工夫する。
SNSでの発信の仕方を工夫する。
- ②ピクトグラムを活用する。
図や表、絵をもっと活用する。
外国人に分別の仕方を知ってもらう。
- ③ごみ箱はみんなの興味を惹くものにする。
(アンケート付のごみ箱→結果をSNSに載せる)
→ポイ捨ての減少、デザインを工夫して楽しさをつくる。

自分たちができること

- ・ごみ箱の工夫について案を考える。
- ・動画の構成の提案。動画に出演する。
- ・掲示物のデザイン案を考える。

未来に届け ～みんなの笑顔守り隊～ グループ

「防災～災害時の行動と避難拠点について～」



グループメンバー

羽田野 聡良（練馬中学校） 杜 美晴（石神井中学校） 新井田 涼音（上石神井中学校）
本田 かほ（大泉中学校） 井上 萌衣（大泉第二中学校）
舟橋 かや乃（小中一貫教育校大泉桜学園） 山川 華歩（関中学校）
森 咲月（都立大泉高等学校附属中学校）

ファシリテーター

前田 茂範
（危機管理室防災推進課防災訓練支援係）
佐藤 雅久斗
（危機管理室防災推進課防災訓練支援係）
小峯 寛大
（こども家庭部青少年課育成支援係）
湯田 拓人
（こども家庭部青少年課育成支援係）



学習会の様子

テーマ：防災～災害時の行動と避難拠点について～

調査内容

- ・ 備蓄物資（備蓄倉庫、配られる物資）
- ・ 徒歩で帰宅するには（帰宅困難者対策）
- ・ 避難するかしないかの基準
- ・ 対策（二次災害への対策、日頃の備え）
- ・ 避難拠点について、在宅避難
- ・ ペットと避難、災害時の行動
- ・ 妊産婦への配慮

テーマについての現状

- ・ 女性用品、子供、妊婦向けの物資の不足。
→女性や保護者の意見を反映、シールの活用
児童館、区民館の活用
- ・ 避難する時の基準
→家の状況を目視、防災についての授業で学習
- ・ 若者に災害についての情報が届いていない
→SNS 活用（広告、ショートドラマ）ガイドブック

課題・問題点

- ・ 区民に防災情報が届いていない（発信していても小、中学生は見ない）
- ・ 避難する時、しない時の基準があやふやになっている
- ・ 女性、子供、妊婦向けの物資の不足
- ・ プライバシー問題

解決策の検討

- ・ 生徒会活動
- ・ SNS 活用
- ・ 女性や保護者の意見を反映させる
- ・ 児童館、区民館の活用
- ・ 自分のことを伝えるシールの活用
- ・ ガイドブック作成（小中高生向け）
- ・ 地域の訓練への参加

解決策を実現するための方法・手段

- ・ 生徒会だより
- ・ 広告、ショートドラマを使う
→Youtube、tiktok、Instagram
- ・ シールや絵本、付録のもの

自分たちができること

生徒会だよりを通して生徒に伝える。

練馬子ども議会

開会宣言



令和7年度 練馬子ども議会開会宣言座席表（議場）

青少年 課 長	議 長（宮沢）
------------	---------

演 壇

The charm of Nerima
～広がれ！
練馬の魅力たち！～
グループ

未来に届け
～みんなの笑顔守り隊～
グループ

Green-saving, superheroes
「みどりを救う」
グループ

May everyone be smiling
～君のその笑顔を
まもり隊～
グループ

	戸高	根本	松田
	森田	近藤	李
	玉川	横田	加藤

羽田野	杜	高橋 乃愛	高見
新井田	本田	眞道	宮沢 (議長)
井上	舟橋	秋田	中野
山川	森	高橋 佳史	三津井

津久井	関口	松井	
池戸	鈴木	関根	
寺嶋	山口	澁谷	

練馬子ども議会・開会宣言

令和7年8月1日(金) 9:15～9:45

青少年課長

ただいまの出席議員数、34名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、
開進第三中学校2年、宮沢友里愛です。
よろしくお願いします。

ただいまから、練馬子ども議会を開会します。
直ちに、本日の会議を開きます。



宮沢 友里愛 議長

会議録署名議員の指名

議長

まず、会議録署名議員を議長より指名します。

関口陽南議員、玉川愛琉議員、高橋乃愛議員、新井田涼音議員、以上4名の議員にお願いします。

次に、練馬子ども議会の会期についてを議題とします。

子ども議会の会期は、本日および8月7日の2日間としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

子ども議員

異議なし

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども議会の会期は、本日および8月7日の2日間とすることに決定しました。

次に、子ども提言(案)について、第1提案「いじめの原因、理由、早期発見」、第2提案「東京といえば練馬区と思ってもらうためには?」、第3提案「練馬の環境を守る」、第4提案「防災～災害時の行動と避難拠点について～」が提出されています。

子ども提言(案)につきましては、この際、直ちに意見交換会を開催し付託したいと思いますが、これにご異議はありませんか。

子ども議員

異議なし

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども提言（案）につきましては、これから全員協議会室で開催する意見交換会に付託することを決定しました。

以上で、本日の日程は終了しました。

これをもって、散会します。

意見交換会



練馬子ども議会・意見交換会

令和7年8月1日(金) 10:00～12:00

「いじめの原因、理由、早期発見」

May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ

Q. 不登校者との関わりを増やすためにグループ活動を増やすということでしたが、不登校の生徒は教室に来ないことが多いと思います。どのように会話や、活動をしていくのですか。

A. 教室で行っているレクリエーションなどを不登校の生徒に伝えることで、行きたいと思ってもらい、教室に来てもらう第一歩になればよいと考えています。

Q. 不登校の生徒にレクリエーション活動を知ってもらうために、具体的にどのようなことをするのですか。

A. 手紙を工夫して配るのがよいと考えます。

Q. 具体的に手紙を不登校者にどのように配るのか教えてください。

A. 三者面談など学校に来た際に渡せるように、手紙を先生に渡しておき、先生から渡してもらうようにします。

Q. いじめの件数は何をもとに調べましたか。

A. いじめの件数は練馬区教育委員会の教育指導課の方から聞いてきました。

Q. 先生にいじめの相談をしやすいするため、先生とのトーク時間を設けるとありましたが、トークはいつ行うのですか。

A. 先生とのトーク時間というのは生徒が話をしたい先生と1対1で会話ができる制度です。いじめのアンケートに先生とのトーク時間がほしいか書ける欄を設け「はい」と答えた生徒が放課後の時間などで相談をします。



Q. 自分たちにできることとして、不登校の生徒に話しかけに行くということを挙げていましたが、不登校の生徒の中には学校に行けない子や、人と接するのが苦手な子がいると思います。そうした場合どのように接していくのですか。

A. 学級日誌などを通じて、絵しりとりなど参加しやすいものから始めてみると良いと思います。こういったことがコミュニケーションのきっかけになっていくと思います。

Q. いじめの防止については何か対策はあるのでしょうか。

A. いじめの防止についてはアンケート調査が挙げられます。その他には先生への相談などが挙げられます。

Q. 先生方の研修会ではどのようなことが行われているのでしょうか。

A. SNSのルールや不登校生徒に対する接し方など先生たちのルールについて話しています。

Q. いじめをしている人に対する方策は何かあるのでしょうか。

A. いじめをする側の人への対策はグループ内でまとまっておりませんでしたので、改めて回答させていただきます。

「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」
The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～ グループ

Q. 小中学校の授業で農業体験を導入するということでしたが、具体的にどのようなことをやるのですか。

A. お米の栽培などを取り入れるなど、農業に触れられるような体験型の授業を取り入れるのが良いと考えています。

Q. 全国都市農業フェスティバルはどのような取り組みなのか。

A. 都市農業に積極的に取り組む全国の自治体や農業者とともに都市農業の魅力と可能性を広く発信し、さらなる都市農業振興を図るために開催しています。

Q. イベントについて知ってもらうための方法として、イベント告知用のチラシやポスター、ネットでの掲載内容を全年代の心を捉えるように改善するということでしたが、具体的にどのような内容にするのですか。

A. 年代ごとにイメージが伝わりやすいようなキャッチコピーや、イラストを使用する。またはトレンドを取り入れた目に留まりやすいようなデザインにすることを考えています。



Q. イベントを紹介するために学校の昼放送を利用するということでしたが、昼放送の時間は友達同士の会話などで聞こえづらい、あるいは聞いていないことがあると思います。その場合はどのように紹介するのですか。

A. 全校朝礼などの時間にイベント紹介をしたいと考えています。

Q. 練馬区だけが情報を発信するのではなく、区民や区外の方にも情報を発信してもらうことが重要とありましたが、具体的にはどのように情報発信してもらうのか教えてください。

A. 区内のお店にQRコードを設置し、お客さんに読み込んでもらい、インスタグラムなどSNSで発信してもらうことを考えています。

Q. 練馬区の農地面積は約172ヘクタールということでしたが、これは練馬区の土地の何割程度を占めているのですか。

A. 約4割程度を占めています。

Q. 区民農園や、チラシの配布などの取り組みがあることはわかりましたが、練馬区の野菜をもっと食べてもらうための取り組みはありますか。

A. 「とれたてねりま」アプリでは直売所で練馬産野菜を買うことで、ポイントなどがもらえるキャンペーンをしているので、練馬産野菜を食べてもらう機会になると思います。

「練馬の環境を守る」

Green-saving, superheroes 「みどりを救う」 グループ

Q. 投票型のごみ箱を活用したごみの収集はとてもいい案だと思います。ですが、投票数を増やすためにわざとごみを増やしたりする人が出てきてしまうのではないのでしょうか。

A. 投票型のごみ箱は、あくまでポイ捨ての減少を目的として設置するものと考えています。

Q. 外国人などごみの分別の仕方が分からない方に対して、ピクトグラムや表、絵を使うとのことですが、どのような場所に使うのですか。

A. 駅周辺にごみが多いということが調査で分かったので、駅周辺にポスターなどの掲示物を貼ることでごみのポイ捨てが減ると考えます。

Q. ハーブテラス以外にはどのようなイベントが行われているのか教えてください。

A. ねりまの森こどもフェスタなど子ども、大人ともに楽しめ、練馬のみどりと触れ合えるイベントを実施しています。

Q. 投票型のごみ箱について、ポイ捨てされるごみの種類が多く分別することが困難なのではないのでしょうか。

A. ごみ箱を可燃ごみ、不燃ごみなど複数種類用意することで対応できると思います。アンケートもごみ箱の種類に応じて内容を変えるなど工夫します。



Q. 公園にごみ箱を設置すると可燃ごみ、不燃ごみのほかにも自転車などのごみまで捨てられてしまうという問題があると思うのですが、それに対する解決策はありますか。

A. ごみ箱の周辺にポスターを設置する、ごみ箱の大きさ、形など工夫することで不法投棄を抑制できると考えます。

Q. ごみ箱の周辺にポスターを設置するだけで不法投棄を抑制できるものなのでしょうか。

A. 区の方のお話でポスターなどの設置によって効果があったということを聞きましたので、実施する意味はあると思います。ポスターをより分かりやすくするためにピクトグラム、イラストを使うことでより効果を得られると思いました。

Q. 区が行っている取り組みを多くの人に知ってもらうために動画の内容を工夫するというのがありました。出演者については出演料などお金がかかってくると思います。お金の工面など金銭的な面については考えてあるのでしょうか。

A. 出演料などについてはグループで回答がまとまっておりませんでしたので、改めて回答させていただきます。

「防災～災害時の行動と避難拠点について～」
未来に届け～みんなの笑顔守り隊～ グループ

Q. 避難拠点を増やすということでしたが、拠点を増やすことで拠点によって物資が届かないなど、格差が生まれることもあると思いますがいかがですか。

A. 区民館などは一時的な避難や、心の不安を解消するための場所として開放するので、物資については従来どおり避難拠点として開放している小中学校に届けられることを想定しています。

Q. 生徒会活動として防災グッズを配ることについて、配布する防災グッズはどのように調達するのですか。

A. 区で保管している避難物資に配れるものがあると地域調査で伺いましたので、そちらから配りたいと考えています。

Q. SNSに災害情報を載せても、興味がない人は見ないので、一部の人にしか情報が届かないのではないのでしょうか。

A. SNSの活用についてはショートドラマを活用することで自然と目に留まるのではないかと考えます。

Q. 妊婦さんなど体調に配慮が必要な方への対応として、児童館などの環境が整っている場所に避難してもらおうということでしたが、近くに児童館などの環境が整った避難場所がない場合はどうすればよいのでしょうか。

A. 近くに児童館などがいない場合は小中学校の空いている教室を使えるようにすることを考えています。

Q. マタニティマークシールを配ることについて、どれぐらい作成する予定なのか教えてください。

A. 作成する枚数についてはグループ内で意見がまとまっていなかったため、改めて回答したいと思います。

Q. 児童館などを避難場所にするということについて、古い建物の場合、耐震性が低くかえって危険なのではと思うのですが、そこについてはどのように考えていますか。

A. 児童館、区民館が避難場所として安全ではないと判断した場合は在宅避難、あるいは近くの小中学校への避難を勧めております。



Q. 大きな震災で避難者の受け入れが学校だけではできない場合は児童館、区民館も避難先になるということでしょうか。

A. 児童館、区民館は心のケアができる場所にしたいと考えております。そのため、まずは避難拠点である学校への避難を優先してもらい、学校での対応も難しくなった際に児童館、区民館を開放するという位置づけで考えています。

子ども提言発表会



令和7年度練馬子ども議会子ども提言発表会 次第

令和7年8月7日(木) 13:30～

生涯学習センターホール

子ども提言発表会

(1) 開会

(2) 提言発表

提言1 May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ
テーマ「いじめの原因、理由、早期発見」

提言2 The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～ グループ
テーマ「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」

提言3 Green-saving, superheroes 「みどりを救う」 グループ
テーマ「練馬の環境を守る」

提言4 未来に届け ～みんなの笑顔守り隊～ グループ
テーマ「防災～災害時の行動と避難拠点について～」

※グループごとに、提言発表を行います。

(3) 講評

(4) 閉会

練馬子ども議会・子ども提言発表会

令和7年8月7日(木) 13:30～15:30

青少年課長

ただいまの出席議員数は34名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、開進第三中学校2年、宮沢友里愛です。よろしくお願いいたします。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、令和7年度練馬子ども議会子ども提言発表を議題とします。

意見交換会での審査の結果、今年度の子ども提言は、「いじめの原因、理由、早期発見」「東京といえば練馬区と思ってもらうためには?」「練馬の環境を守る」「防災～災害時の行動と避難拠点について～」の4つとなりましたので、報告を求めます。順次発言を許可します。



議長

May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ、お願いします。

「いじめの原因、理由、早期発見」

May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ



私達のグループ名はMay everyone be smiling～君のその笑顔をまもり隊～です。

私達は「いじめの原因、理由、早期発見」について調べました。

以下の7つは今どんな対策をしているのかです。

まず1つ目はいじめ防止アンケートの実施です。これは、いじめの有無などを紙に書き、先生方に提出するアンケートです。

2つ目は相談室でスクールカウンセラーの人に相談できることです。どんな悩みでも相談に乗ってくれます。

3つ目はポスターと標語（いじめ一掃プロジェクト）です。いじめをなくしたり、止めたりするための、言葉や文章を、ポスターや大きい文字にして各学校の廊下などに掲示します。

4つ目は先生方の研修会があることです。

5つ目は情報モラル教室があることです。情報社会において、適切に行動するための考え方や態度を専門の人が教えてくれます。

6つ目はリーフレットの作成です。

7つ目はSNSでのルールが定められているということです。学校ごとにSNSの利用に関するルールを策定し、児童生徒に周知徹底させることです。

考えるだけでも、7つの対策をしています。しかし、2023年は約1,400件、2024年は約2,400件といじめの件数は大幅に増えています。では、いじめの原因、問題点に移らせていただきます。

練馬区教育委員会のいじめの取り組みについて知るために、実際に練馬区の教育指導課の方に話を聞いてきました。

学校での取り組みとしては、年に3回のアンケートがあります。その中に生活アンケートと学期末に一度あるいじめアンケートがあります。

目的・方法・わかったこと

1. アンケート <生活アンケート
いじめアンケート>
2. ポスター・標語
3. SNSルール
4. 情報モラル教室



また生徒たちに作ってもらうポスター、標語などで生徒たちにいじめについて考えてもらう機会があります。いじめ一掃プロジェクトという子どもたちが明るく楽しい学校生活を送れるようにいじめをなくす活動もあります。

次にSNSでのいじめ防止の取り組みについてです。各学校や区、都によって決めているSNSルールです。練馬区のSNSルールは4つあります。「他の人の写真や動画、個人情報をのせない」「送信する前に誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるかを考えて読み返す」「相手の都合を考えて、送信時刻・回数に気をつける」「人と会っているときはスマホやゲーム機などの使用は控え会話を大切にする」です。もしSNSトラブルが起きてしまった場合には、区の職員や学校の先生、場合によっては警察の方たちと話し合っているそうです。そして小学5年生と中学2年生を対象とした情報モラル教室が実施されています。生徒だけでなく保護者の方も情報モラル教室に参加できるようになっていて、親子でSNSの危険さについて知ることができます。

私達は次に述べる6つの問題点を見つけました。

問題点

1. 先生に相談しにくい


2. 3人グループが2対1になってしまうことがある

3. 個性の違いのいじめ

4. 見て見ぬふりをする人がいる

5. グループ同士によるいじめ

6. いじめが原因の不登校者と関わりにくい



1つ目は、先生にいじめについて相談しづらいことです。もし、いじめられていることを先生に言ってしまうといじめがヒートアップしてしまうかもしれない、いじめられている人を知っていて先生に言ってしまうと自分がいじめられるかもしれないなど様々な理由があります。

2つ目は、3人グループが2対1になってしまうことです。

3つ目は、個性の違いでのいじめです。最近では、障害をもった方や外国人の生徒が増えているので、個性を大切にしなければいけません。

4つ目は、見て見ぬふりをする人がいることです。先生に相談しにくい理由と似ていて、責任を負いたくないなどの理由があります。

5つ目は、グループ同士の対立によるいじめです。

6つ目は、いじめが原因で不登校になった人と関わりにくいことです。私の学校にも不登校の人がいますが、自己紹介の時間にいなかったり、話しくくかったりするのでその人について知らないことが悲しいと感じます。以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず1つ目の解決策としては、先生と生徒が関わりやすくすることです。先生と生徒が関わりやすくなる事によっていじめについて悩んでいることなどを気軽に相談でき、いじめの発見につながると考えました。この解決策を実現するために先生とのトーク時間

解決策・手段

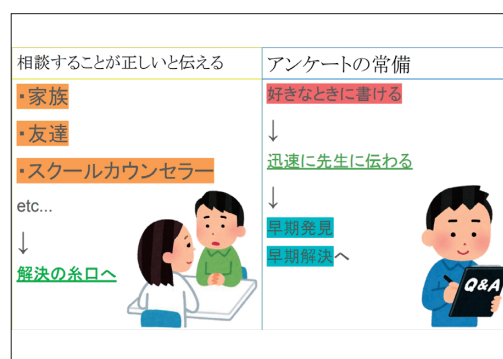
1. 先生と生徒が関わりやすくする。
↳トーク時間、レクリエーションの実施。
2. 家庭などでも相談しやすい雰囲気を作る。
↳スライド等を用いて現状を伝える時間を設ける。



を作る、先生クイズなどのレクリエーションの実施をしてみてもいいでしょうか。

2つ目の解決策は家庭でも相談しやすい雰囲気を作ることです。相談することが恥ずかしい、親に相談しづらいという人でもそれはだめなことではないと伝えることによって、一人で抱え込みづらくできると考えました。具体的な方法としては、地域の人（子どものいる家族）を招き、いじめについて身近に知ってもらえるよう、スライドなどを使って、現状を伝える時間を設ける、子どもに様子を聞くように促すことが大切だと思いました。

3つ目の解決策としては、相談することが正しいと伝えることです。自分が信用できている友達や家族、スクールカウンセラーの先生に相談することで精神的な余裕を作れたり、アドバイスされたことを試せたりすることでいじめの解決への糸口になると考えます。



4つ目の解決策としては、アンケート用紙を常備しておくことです。現在、年3回いじめに関するアンケートを行っていますが、アンケートを常備することで自分が助けを求めるときや、誰かいじめられている人を見つけたときに、迅速に先生に伝えることができます。そうすることによって、いじめの早期発見、早期解決に繋がると考えます。また、アンケートを行うことで、いじめを未然に防ぐことができます。

5つ目の解決策としては、グループ活動を増やして関わりやすくすることです。グループ活動を増やすことで、不登校者との関わりも増え、「不登校者との関わりにくい」という課題を解決できる、と考えました。なので、今までよりグループ活動を増やし、不登校者との関わりを活発にしていくのはどうでしょうか。

6つ目の解決策としては、アンケートのインターネット化です。現在、アンケートは紙で行っている学校が多いですが、紙だと「他の人に見られるかもしれない」という不安があり、本当のことが書けない人がいると考えます。なので、アンケートをインターネット化することで、休日にもアンケートに回答できる、見られる不安がないなど課題を解決できると考えました。このようなことから、アンケートをインターネット化するのはどうでしょうか。

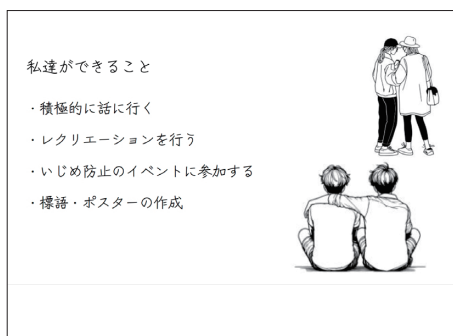
最後に私達ができることとして、はじめに相談のしやすい環境・雰囲気作りをすることです。そのためには、クラスメイトをはじめ先生、親と交流し、信頼しあえる関係作りをすること。そして、信頼のできる大人を

わたしたちにできること

- ・相談しやすい環境・雰囲気作り
- ・信頼関係をつくる
- ・信頼のできる大人を探す
- ・呼びかけをする
- ・ポスターや標語の作成



見つけて1人は相談のしやすい人を作る大切さを伝えるためにポスターや標語などの作成ができます。そうすることで、たとえいじめが起き始めても自分から、または周りの人がおとなに相談しやすくなるのでいじめの早期発見、解決に繋がると考えます。



また、不登校の子たちに積極的に話しかけに行くと、不登校の子も一人にならず、少しだけ不安をなくせることができます。レクリエーションを行うことで、色んな人との関係性を広げることができます。いじめ防止のイベントに積極的に参加することで、地域の方々にもいじめは良くないということを伝えることができます。

さらに、元気な挨拶をし、良い印象を与えて、接しやすくすることもできます。標語・ポスターなどを書いて、学校の生徒全員にいじめは良くないと伝え、これを機にいじめはダメだと注意してくれる人が増えたり、ポスターを描きたいと思う人が出てきてくれると考えました。

これらのことから私達のグループは、いじめの原因、理由、早期発見の解決策として先生と関わりやすくする、家庭内で相談しやすい雰囲気を作る、相談することは正しいと伝える、アンケートをインターネット化もしくはアンケート用紙を身近なところにおいておく、グループ活動を増やして生徒同士が関わりやすくするという5つの解決策を考えました。

以上でMay everyone be smiling～君のその笑顔をまもり隊～の発表を終わります。

議長

ありがとうございました。それでは次の発表に移ります。

The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち～ グループ、お願いします。

「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」

The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！ グループ



私達「The charm of Nerima～広がれ！練馬の魅力たち！～グループ」は、「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」について発言します。

私達の住んでいる練馬区は、農地面積約172haと自然が多いです。この面積は東京の区部全体の農地面積の約4割に当たります。また、23区の中で最後にできた区でもあります。そのため、自然を活かしたイベントを行っています。具体的に区や、観光案内所がどんなイベント等の企画を行っているのか、現状を知るために今回、練馬区都市農業課やねりま観光センターに行き、インタビューをし、調査しました。



練馬区都市農業課では、もっと気軽に土に親しみたいという区民の要望を叶えることと、農地の保全を図るために農園を区民農園と農業体験農園の二つに分けているという取り組みをしていることを知りました。

区民農園は、練馬区が所有者から借り受けた農地で自由に好きな農作物を育てられるようにした農園で、農業体験農園は、農家が開設し、利用者は入園料を払い農家の指導のもと体験をする農園という違いがありました。

最近の取り組みとしては、『全国都市農業フェスティバル』という企画を行っています。このイベントでは、『買う』『食べる』『体験する』『話す・学ぶ』をテーマに、キッチンカーやワークショップ、トークライブなどが行われました。

また、『とれたてねりま』という練馬産農産物を販売している直売所や飲食店等の情報を掲載しているアプリもやっています。

ねりま観光センターでは、ねりま観光ツアーの開催をしたり『ねりコレ』という練馬のオススメ商品コレクションのパンフレットを掲載していました。また、近年外国人観光客が増えているため、英語や韓国語などの様々な言語

のマップやパンフレットを発行しているそうです。ポリシーとして『お客さんと同じ視点で、事業者さんと信頼関係を築きながらワクワクする情報発信ステーションとなり、練馬の未来を作る』ということを掲げていました。

また、2つの調査場所では、どこの層をターゲットとし、ターゲットとしている人達に興味を持ってもらえるようなPR方法は何か、PR方法は本当に最適かをポイントとして活動しています。

地域調査の結果から、次に述べる3つの問題点を見つけました。



1つ目は区民の人も区外の人も練馬区の特徴を知っている人が少ないということです。練馬区は様々な活動を行っていますが、それを知らないという人が多いです。

2つ目は、小・中学校向けのイベントが少ないということです。地域差が出てしまい、なにもイベントを行っていないという地域もあります。

3つ目は、練馬区の取り組みの段階で抜けているところがあることです。例えば、直売所のアプリについてです。直売所でもっと身近に練馬産の野菜・果物を買ってもらい、知ってもらうことを強化するために作成されています。しかし、そもそもどこに直売所があるのか知らない人もいます。そのため、もっと直売所の設置場所の情報を広める必要があります。すなわち、周知方法がうまくいっていないということが言えます。具体的には、とりたてネリマのアプリのように、アプリの中に様々な情報が入っているが、アプリの存在が知られていないことが挙げられます。

これらの問題を踏まえて、私たちは解決策について話し合い、考案しました。

まず、練馬区の魅力を知っている人が少なく、練馬区の魅力を伝えられるイベントが少ないという問題については、特産物を使った体験イベントを実施することで解決できます。例えば、練馬産野菜などを使った料理教室や農業体験で収穫した野菜を食べたり農家の方との交流などを行ったりします。料理教室では、様々な世代の人が練馬の特産品を使った料理を作ったり、いろんな方法で特産品を知ることができ、練馬の特産物に対する関心を高めてもらうことができます。そうすることで、様々な世代の方が練馬の魅力について広めてもらえるようになると思います。



次に、これらのイベントについて知ってもらうための方法を3つ考案しました。

1 つ目は、区内の小中学校での農業体験農園を活かした授業の導入です。区が農業体験農園を経営している農家と連携し、小中学生の農業体験を実施することで、児童及び生徒の農業への関心を集め、区民の農業への興味を引くことができます。農業体験への積極的な参加を促すためにも小中学校で農業関連の授業を取り入れてみてはどうでしょうか。

2 つ目は、イベントの告知用のチラシやポスター、ネット中での記事などの宣伝物を全年代の心を捉えるように改善することです。小中学生向けの宣伝物ではカラフルなデザインに柔らかな字体を用いたり、大人向けの宣伝物では落ち着いたデザインでイベントの詳細を書いたりするなど、年代でデザインを変えてみてはどうでしょうか。



3 つ目は、情報を発信してくれると「商品券」や「割引券」がもらえるといったキャンペーンをすることです。練馬区だけが情報発信するのではなく、区民の方や、区外の方にも情報発信してもらうことが重要だと考えました。そうすることでネットの中での練馬区についての情報が増え、人の目につきやすくなります。



このように練馬の魅力を知ってもらうためには何かを練馬区だけで宣伝するのではなく、区民の人や区外の人にも発信してもらったり、宣伝物のデザインを工夫することが大切です。

最後に、私たちができることについて話し合い、考えました。

私たちには、練馬区の産業や文化をもっと多くの人に伝えるために、できることがたくさんあります。一方で、練馬には伝統的な産業や歴史ある文化、魅力的な体験イベントなどがありますが、実際には多くの小中学生や区民の人々に知られていないのが現状です。また、地域によって差が出てしまっています。私たち自身、議会活動を通して、初めて知ったことも多く、「こんな面白い取り組みがあるのに知らないなんてもったいない」と感じました。

そこでまず大切なのは、私たち自身がこうしたイベントに実際に参加することです。例えば、地元の農産物の直売所や区民農園などを利用してみたり、練馬区が主催している「全国都市農業フェスティバル」などのイベントに訪れてみたりすることが大切だと思います。自分の目で見て、体験してみると、その魅力と楽しさを自然と伝えたいくなるはずです。そして、クラスメイトや友達と話したり、学校の掲示板やSNSで写真や感想を共有したりすれば、周囲の人達も興味を持ってくれると思います。

さらに、学校新聞や学年通信などを活用し、自分たちの体験やイベントの

内容を記事にまとめて発信するのも良い方法です。写真やイラストを交えて紹介することで、より多くの人の目に行き届きやすくなり、読んだ人も「行ってみたい」と感じるきっかけになります。そうすることで、保護者や先生方にも地域の良さが伝わります。



また、放送委員会や生徒会と協力して、昼の放送の校内放送や全校集会などで紹介してみるのも効果的です。「今週末のおすすめイベント」など、面白くて楽しそうな題名のコーナーを設ければ、全校生徒に一度で情報を伝えることができ、興味を持ってもらうことができます。

いろいろな人に興味を持ってもらえることで、友達同士で「一緒に行こう」と声を掛け合うきっかけにもなると思います。そうなれば、一人で行くことに抵抗を感じている人も、より行きやすくなるのではないのでしょうか。

このように、私たち自身がこうしたイベントのことを知り、参加し、発信していくことで、練馬の魅力を広げていくことができると思います。一人ひとりの力は小さくても、みんなで取り組めば大きな力になります。自分たちの住むまちをもっと好きになるために、まずは自分からというマインドを持ち、これからも積極的に行動していくことが大切だと思います。

以上で、The charm of Nerima～広がれ！練馬の魅力たち！～ グループの発言を終わります。

議長

ありがとうございました。

この際、以降のグループ発表に参加したいので、副議長の鈴木議員と交代いたします。

副議長

ここからは、副議長を務めます、練馬子ども議員、南が丘中学校2年、鈴木優奈が議長の職務を行います。よろしくお願いします。

それでは、次の発表に移ります。

Green-saving, superheroes「みどりを救う」グループ、お願いします。



「練馬の環境を守る」 Green-saving, superheroes 「みどりを救う」グループ



私達『Green-saving superheroes 「みどりを救う」グループ』は、「練馬の環境を守る」ということについて発表します。

私達の住む練馬区は、現在、区が練馬のみどりについての紹介やみどりを守るためにどのような取り組みを行っているのかなどの6項目をホームページで紹介しています。例として、「講座・催し物」では、ハーブテラスでイベントを行っており、「緑化に関する助成制度・支援」では、練馬みどりの葉っぱい基金が行われていることがわかります。ハーブテラスではイベント



に参加してもらうことで、みどりとふれあい、環境について学ぶことができる取り組みです。葉っぱい基金は練馬区のみどりの回復・保護を行うために応援したいプロジェクトを選んでお金を寄付して、区民が練馬のみどりの保全・保護活動に携わり、貢献することができる取り組みになっています。みどりを守るための取り組み

みは他にも様々なものがあります。しかし、このようなみどりを守る取り組みを行っているということを知っている区民はとても少ないのではないのでしょうか。実際に、2011年から2022年にかけての11年の間で練馬区の緑被率は約2.8%減少しています。

また、私達はポイ捨てについてとごみ分別についての2つのグループに分かれ、環境課と清掃リサイクル課の職員の方々に練馬区のみどりを守る取り組みは他にどのようなものがあるのか、その取り組みはどのような目的があるのかについてインタビューをしました。そのインタビューで、ピリカというごみ拾いSNS、小中学校での環境学習、YouTubeでの情報発信などの取り組みがあると知りました。

その中から、みどりとごみについて調べた中で私達が主に課題だと考えたことを4つ紹介します。

1つ目の課題は、区が行っている取り組みが区民に知られておらず、活動が活かされていないということです。そのため、ハーブテラスでのイベントや、ボランティア活動が幅広い世代に知られていないということになります。

2つ目の課題は、正しいごみ分別が行われていないということです。例えば、練馬区の分別の仕方が海外と異なっているため、分別の仕方がわからない海外から来た人が、決められた曜日以外でごみを出したり、可燃も不燃も混ぜてごみとして出すこともあるそうです。ごみ分別ができないため、区の清掃作業員さんに負担がかかってしまうということや、とりあえず捨ててしまうことからポイ捨てをするという問題が起こってしまいます。

3つ目の課題は、駅周辺に煙草のポイ捨てのごみが多いということです。区役所の職員の方のお話により、特に大泉学園駅の喫煙所周辺で煙草のポイ捨てが多いことがわかっています。具体的には、週に一回掃除が必要な程度です。



煙草のポイ捨ては、近辺の方々の迷惑になるだけでなく、植物にも害を与えます。煙草には植物にも有害な物質が多く含まれており、ニコチンやタールなど、聞いたことのある名前も多いと思います。それらは煙だけでなく、もちろん吸い殻にも残っているため、煙草に残った有害な物質が植物の発芽を抑制したり、成長を遅らせたりすることに繋がります。また、煙草の有害な物質は土壌も汚染するため、植物が育ちにくい土へと変わってしまい、練馬のみどりが少しずつ減ってしまう一因となっています。

4つ目の課題は、ごみ箱の設置が難しいということです。現在の公園には、ごみ箱の設置がされていないところが多いです。

理由としては、公園にごみ箱を設置することで可燃、不燃ごみ以外にもベビーカーや自転車などの粗大ごみを捨てる人がいたり、放火をする人が出たり

した事が挙げられます。それらは、周辺に住んでいる方々や、公園に遊びに来ている子どもたちの迷惑になります。また、過去に設置されていたときには、一つのごみ箱しか設置されていなかったため、正しいごみ分別ができず、清掃作業員の方々の負担にもなっていました。

続いて、これら4つの問題・課題点の解決策の提案に移らせていただきます。

まず、1つ目の「活動が知られていなく活かされていない」という課題については、練馬区の公式SNSなどで投稿、配信している動画の本数を増やし、動画の内容やSNSでの配信の仕方を工夫するという解決策を提案します。



動画の本数については、動画の投稿数を2週間に1回程度にすることで、人の目に触れる機会が増えると考えます。また、動画の内容を工夫することについての例は、内容を面白くする、出演者を工夫する、簡潔にする、流行りに乗る、今の人が使っているものに注目するなどです。具体的出演者の工夫は、ボランティア活動の一貫として行う予定です。そうすることで、若者の目にもとまり、注目を集めやすいと考えたからです。

SNSでの発信の仕方を工夫することについての例は、あまり知られていないアプリ（ピリカ）などを使うのではなく、Xや、Instagram、YouTubeなど若者がよく見るようなものを使って配信することです。そうすることで、先程と同じく、若者の目にもとまり、注目を集めやすいと考えたからです。

そのような工夫を行うことで、SNSという幅広いところで活動が知られるため、活動の効果が高まります。

2つ目の「正しいごみ分別が行われていない」という課題については、掲示物に外国人でも通じることができるよう工夫を行う解決策を提案します。外国人など、ごみの分別の仕方がわからない方や、小さい子供、分別の仕方がわからず煩雑になっている人に対しても、ピクトグラムや表、絵を使うことで、直感的にわかりやすくすることが必要だと思います。そうすることで、誰が見てもわかるようになり、正しいごみ分別が行われることが多くなると考えました。



3つ目の「駅周辺のごみが多い」という課題については、ポイ捨てが特に多い場所の掲示物を改善するという解決策を提案します。

具体的な方法としては、掲示されているポスターなどをピクトグラムや表、絵などを用いて改善し、誰にでもわかりやすく伝える工夫をすることが必要だと考えています。そのような改善を行うことによって、煙草などのごみをポイ捨てする行為は、立派な犯罪であることを認識させることができ、ポイ捨てや、廃棄物の投棄を少しでも減らすことに繋がると考えたからです。

4つ目の「ごみ箱の設置が難しい」という課題については、ごみ箱を誰もが興味を引くものにするという解決策を提案します。



例として、「目玉焼きにかけるならどっち！？」というテーマを用意し、醤油派とソース派に仕切りで分かれた投票型のごみ箱を設置します。そして投票率で競います。テーマに沿った2択を用意することで、ごみを捨てることに楽しさを生み出し、ごみ箱を多く

の人に活用してもらおうのが狙いです。このようにごみ箱を誰もが興味を引くものにすることで、ごみをポイ捨てする行為が減り、街の景観の向上につながると考えます。また、渋谷区では実際にこの活動を行って、煙草の吸殻のポイ捨てが10分の1に激減したという事例があります。そして、ごみ箱で行った投票結果をSNSなどを通じて発信することで、区民の関心も高まり、認知度も上がると考えます。

以上4つの課題に対する解決策と取り組みを実施することで、SNSという幅広い場で活動が知られるため、活動の効果が高まり、ポイ捨てや、廃棄物の投棄の減少、認知度の増加につながります。

続いて、以上のことに対し、私達ができることについて発表します。

1つ目は動画を見る人を増やすことです。動画の構成や内容を熟慮し提案することでより面白くて興味の惹かれるものが作れるようになると思います。また実際にボランティアとして動画づくりに携わったり出演してみることで同年代の人たちも巻き込んで関心を集めることができます。そしてSNSでの発信の仕方も改善できると思います。

2つ目は掲示物のデザインを考えることです。ピクトグラムや図、表、絵などを使用することで、外国人の方や小さな子どもたちにもごみの分別の仕方がわかりやすくなることが期待されます。ピクトグラムはバリアフリーなども意識することが可能になるため特に良いと考えています。



3つ目は公園などの公共施設にあるごみ箱の工夫です。先程言ったようなアイデアを出し提案することは私達にもできる簡単なことです。例に挙げたアンケートつきのごみ箱ならば、アンケートの内容を考えてみるができますアンケート内容は小さい子どもから高齢者までの幅広い世代の人たちに響くものにしたいです。

ごみ問題は直接、みどりを増やしたり守ったりするものではないかもしれませんが、このような活動で少しでも練馬区のみどりについて関心を持っていただけたら幸いです。きれいな街を維持することは人々のみどりを守る心を育むことにつながると 생각합니다。

以上で『Green-saving superheroes 「みどりを救う」グループ』の提言発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

副議長

ありがとうございました。それでは次の発表に移ります。

「未来に届け～みんなの笑顔守り隊～」グループ、お願いします。

「防災～災害時の行動と避難拠点について～」 未来に届け～みんなの笑顔守り隊～ グループ



私たち「未来に届け～みんなの笑顔守り隊～」グループは、防災～災害時の行動と避難拠点について～発表します。ここから大きく分けて3つのグループに分けて現状、課題、解決策等を発表していきます。

はじめに、避難拠点に対してです。

1つ目の提案は児童館や区民館を避難拠点に追加するということです。現在練馬区は震度5弱以上の地震が起きた場合、練馬区立の小・中学校98校を避難所と災害時の活動拠点である防災拠点の役割を兼ね備えた避難拠点として活用します。練馬区の総人口はおよそ74万人なのに対し、避難拠点の収容人数はおよそ7.5万人で

す。一方、東京都の最新の調査ではおよそ13万人の人が避難してくる想定になっています。そのため、今までの避難拠点の数ではもしも練馬区で大きな地震が発生したとき避難してきた方を受け入れきれない場合があります。また、避難拠点はこのようにプライバシーの確保や一人ひとりのスペースの確保が難しく、自分の家ほど快適な環境ではありません。そのため、例えば子どもはおもちゃなどがなく退屈してしまい、精神的にストレスを抱えてしまいます。また、妊婦さんも慣れない生活に不安を抱えてしまいます。

そこで、おもちゃや授乳スペースがある避難拠点があればいいのではないかと考えました。このことから、子どもやその保護者、妊婦さんがより快適に避難できる児童館や区民館を避難拠点に追加することを提案します。具体的にどのようなタイミングで活用するかというと、まずは優先的に区立の小中学校を開放した後、精神的な面をフォローするため児童館や区民館の安全を確認して開放します。

2つ目の提案は「マタニティマークシール」を作り、避難拠点で配るということです。防災学習センターを見学したところ、高齢者・障害者・乳幼児

児童館や区民館の様子

地区区民館びよびよ

練馬区立光が丘児童館



などへの支援や女性への支援は整っていました。ですが、妊婦さんへの支援が少ないという印象を受けました。特に妊娠初期は流産の危険性、中期は早産の危険性、後期は分娩を目前にした時期です。そして、産婦さんは出産後の

②マタニティマークシールを作り、避難拠点で配る

特に妊婦さん向け

例：



の回復過程で心身ともに無理はできないと考えられます。その際に必要になるのが「助け合い」です。そこで「マタニティマークシール」を活用します。避難生活中、妊婦さんにはマタニティマークストラップ等を目立つ位置につけてもらうようにします。しかし、マタニティマークストラップを忘れてしまった・壊れてしま

ったときや、避難拠点で出産をしなくてはいけなくなったときがあると思います。そんなときに使えるシールです！「忘れてしまった・壊れてしまった」場合には避難拠点でシールを配れば解決できます。また、避難拠点での出産も周りが「妊婦さん」だということを認識していれば助け合いができます。これらのことから「マタニティマークシール」を中学生と区が協力して一つの避難拠点に約100枚、合計で約9800枚作成し、避難拠点で配るということを提案します。

次に災害時の行動についてです。これについての問題点は「地震が起きた際の避難する、しないの基準を把握していない」という点です。そのため、災害時にパニックになって避難すべきときでも判断を誤ってしまいます。例えば、家具の下敷きになってしまったり、家の中に取り残されてしまう可能性や、関東大震災のような火災被害などの二次被害に巻き込まれる危険性も十分にあります。

そこで、このような被害が起きないために私たち中学生ができる解決策を考えてみました。それは「避難するかしないかの自己判断の方法」を周りに知らせることです。具体的にどのような方法で実行するかというと、生徒会活動の一貫として、全校で集まる時間を設け、宣伝を行います。その後、生徒会新聞を生徒のみなさんに配り、写真などを提示してクイズ形式で問題を出します。正解した人には、防災グッズを配るなどの参加者を増やす工夫を行います。防災グッズを実際に使うことによって、災害が起きたときに疑問なく使える、もしものときに困らないなどのメリットがあります。

ではここで、皆さんにクイズです。

地震が起きた際、避難すべき場面は次の3つのうちどれでしょう。

- ①地震が起きて自分で立てないとき
- ②家具が倒れてきたとき



③壁に亀裂、ヒビができたとき

では、

①の地震が起きて自分で立てないときだと思える人？

②の家具が倒れてきたときだと思える人？

③の壁に亀裂、ヒビができたときだと思える人？

正解は①②③の全部です。しかし、みなさんが不安に思ったら避難しても大丈夫です。

実際に光が丘の防災学習センターで職員の方々にお話を聞いてきました。地震が起きたらまず自分の命を守る行動を。そして家の状況・様子を目視で点検して判断することが大事だと伺いました。ですが、地震が起きて自分が「不安」だと感じたら一時的に避難するのも良いそうです。自分で見て大丈夫だと判断した場合は在宅避難をすることも一つの手段です。

皆さんは今言った「在宅避難」について知っていますか？



次に在宅避難について説明します。在宅避難とは住み慣れた自宅での避難生活のことです。在宅避難を行うことでプライバシーを守れたり、住み慣れた環境で安心して過ごしたりする事ができます。在宅避難の際に活用できるものとして「練馬区災害時安否確認ボード」があります。「練馬区災害時安否確認ボード」は防災の手引に挟まれていて、玄関前に置いておくことで安

否を共有し、地域で助けを必要としている人を速やかに見つけることができます。

このように生徒会活動で生徒に問題を出すことで、防災への意識が高まり、災害について知ってもらえる。そして防災グッズを実際に配ることで、配られたものを練習として使い、災害が起きる前に疑問なく使える、もしものときに困らないなどのメリットがあります。先程のことを踏まえて、防災に興味を持ってもらえるような取り組みを行いたいと考えています。

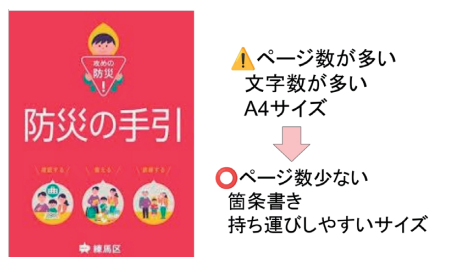
最後に、練馬区の情報発信についてです。情報発信の現状課題として、1つあります。それは、練馬区が防災情報を流していても、小中学生や高校生などの若者には届いていないということです。この課題を解決するために私たちが提言するのは、以下の2つです。

まず1つ目はSNS活用です。最近は小学生でもスマートフォンを持つようになってきました。そこで、Instagram、YouTubeなどの若者が使うアプリやねりまほっとラインに災害に関するシ

SNS活用について



ョートドラマを掲載することで、少しでも興味を持つことができるのではないのでしょうか。例えば、区と中学生が協力し、若者の目に止まりやすく災害時に役立てられるような行動をリアルに再現した動画を作成したいと考えています。



2つ目は、小中学生・高校生向けのガイドブックの作成です。現在、練馬区が防災の手引を作成しているのを知っていますか？しかし、文字数やページ数が多く、きっちり読まずに軽く目を通して奥の方にしまっていないませんか？また、ガイドブックがA4サイズのため、なおさらそうになっていませんか？そう考えた私たちは、カ

ラーでイラストが多く、2次元バーコード付き、そして、簡条書きで文字数とページ数が少なく持ち歩きやすいサイズのものを作成するべきだと考えました。その他にも、自分たちができることとして、生徒会だよりも防災クイズや呼びかけ、避難拠点や災害時での行動を記載することや、朝礼などを通して全校生徒に子ども議会を通して学んだことを他の生徒会メンバーと協力して伝えていきます。これらの対策を通して区民の人が防災知識を増やし、災害時の避難を素早くして区民の命がひとりでも助かるようにして、よりよい未来に繋げていきたいです。

以上で私たち、未来に届け～みんなの笑顔守り隊～グループの発表を終わります。

副議長

ありがとうございました。以上で、子ども提言発表を終了いたします。

それでは、練馬子ども議会で発言のあった、「いじめの原因、理由、早期発見」、「東京といえば練馬区と思ってもらうためには？」、「練馬の環境を守る」、「防災～災害時の行動と避難拠点について～」以上の4つの子ども提言について、教育長から講評をお願いします。

三浦 教育長



皆さん、こんにちは。練馬区教育委員会教育長の三浦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

34名の子ども議員の皆さん、6月28日から本日までの5日間にわたる子ども議員の活動、お疲れ様でした。猛暑の中、屋外で地域調査をしたグループもあり、本当に大変だったと思います。

皆さんは、本日の提言発表を行うまで様々な学習をされました。地域調査では、区の職員にインタビューをしたり、区の施設などに実際に出向いて様々な人の意見を聞いたりしてきたと伺っています。

現在はインターネットで簡単に多くの情報が手に入るように感じますが、実際に現場に出向いて、様々な人の声を聞いて現状を知ったり、感じたりすることはとても大切なことだと思っています。現場に行かなければわからないことがたくさんあるということは、皆さんも感じられたのではないのでしょうか。

4回の学習会では、現状を把握したうえで、グループで議論し、課題を見つけ、解決策を考えられたと思います。意見交換会ではグループ間で活発に意見を交わし、自分だけでは気づけなかった視点を得られ、ほかの人の意見を取り入れて発表内容を少しずつ充実させていく過程が体験できたのではないのでしょうか。皆さんが、積極的に他グループに対し、鋭い質問をしている姿や、質問に対してその場で考え、回答をしている姿は大変立派で、本当に頼もしく感じました。さらなる質問に対して、仲間同士で助け合い回答している姿も見られてとても良いチームワークができていると思いました。

それでは、発表されたグループ順に、それぞれコメントをさせていただきます。

まず、はじめに「May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～」グループです。いじめ問題を課題として選んで発表していただきました。

いじめの防止や解決のために、学校ができること、家庭ができること、児童生徒一人ひとりができることの3つに分けて解決策を提案してくれました。

教育委員会が既に実施していることをきめ細かく分析してくれている点が良かったと思います。

アンケート用紙を常備したり、ICTを活用して実施したりと、アンケートの活用方法の改善策を具体的に提案している点も良かったです。

発表の中でもいじめが急激に増えているというお話がありました。その理由は何だと思いますか？いじめの件数は、「認知件数」と言われるもので、アンケートや被害者・目撃者からの訴えによっていじめを認知した数です。

いじめが起きているのに、先生が気付いていない場合は、件数にはカウントされません。つまり、認知件数が増えていることは、いじめ被害が小さい段階で、いじめに気付くことができている、という見方もできます。そういった視点も発表に盛り込むことができるとより説得力が増すと思いました。

教育委員会では、児童生徒向けに「いじめ一掃プロジェクト」を実施し、いじめを「しない」「させない」「許さない」心情を育んでいます。発表の中にもありましたが、いじめを受けた、見た場合、先生に相談しづらいという話がありました。

全児童生徒に一人一台あるタブレット端末のブックマークに「ねりまホッとアプリ+（プラス）」が登録されており、オンラインで相談することができます。スマートフォンを持っている方はスマートフォンからも相談することができます。また、学校によっては年3回のアンケートを、タブレット端末を活用して行っています。

いただいた提言も参考に、いじめで悩む生徒が一人でもいなくなるよう全力を尽くしたいと思います。

今回の発表グループ名「君のその笑顔をまもり隊」いい言葉だと思いました。一人ひとりがその気持ちを持つことがとても大切です。皆さんが、引き続きいじめを減らす取り組みを実践してくれることを期待しています。

つぎに「The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～」グループです。産業や文化など練馬区の魅力について発表していただきました。

区の特色を知っている人が少ないのではないかと、小・中学生向けのイベントが少ないのではないかとという意見や、そのため周知に改善の余地があるのではないかとといった課題を挙げてくれました。

イベントの周知方法として、放送委員会や生徒会による全校集会での紹介や、学校新聞、学年通信でイベントの内容を紹介するなどの提案をしてくれました。生徒の力による広報という新たな切り口や可能性に大変魅力を感じました。

さらにイベントの周知について、チラシやポスター、ネットの記事を全ての年代の心を捉えるものに改善する。という提案がありました。全ての年代に刺さる周知となると、年代に合わせて周知の手法を変えていく必要があります。インターネットやSNS、年代によっては紙媒体のほうが良いかもしれ

ません。一方で、事業にかけられる予算には限りがありますので、かかる費用とその効果を考えた場合の優先順位など、もう少し広い視点で解決策を考えられると、さらに良かったと思います。

ねりま観光センターでは「ねりま観光ツアー」を実施しており、様々なイベントを通して、区の魅力を多くの人に伝えています。過去には、都市農業が盛んな練馬区の魅力を知ってもらうため、練馬産の果物や野菜の収穫を体験できる「農の恵みと風景を巡るツアー」など農家の方との交流や練馬産野菜等を使った料理教室を実施しています。これからもこうした魅力あるイベントを周知していくため、皆さんからの提案も参考に取り組みでいきたいと思っています。

発表の中にあつた「自分たちの住むまちをもっと好きになるために、まずは自分からというマインドを持つ」という力強い発言は、大変心強く感じました。今後も皆さんが多くの体験を通じて、練馬区の魅力を発見し、それを発信していただき、練馬区を盛り上げていってほしいと思います。

つぎに「Green-saving, superheroes みどりを救う」グループです。練馬区の環境を守ることにについて発表していただきました。

ごみ分別の周知について、掲示物を改善することを提案してくれました。ピクトグラムなど直感的に理解できるデザインは多くの人に受け入れられやすく、外国人にもわかりやすい大変良いアイデアだと思います。公共の場でのごみの分別について解決策を考えてくれましたが、各家庭でのごみの分別という視点も考慮してもらえとなおよかったと思います。

SNSの活用についてXやInstagramなど多くの若者が利用している媒体を活用することを提案してくれました。ピリカなど専門性の高いSNSを活用することにも同じ活動をする者同士がつながりやすいという良い点があります。それぞれのSNSの特徴やメリット、デメリットについてもさらに考えていただくとより説得力が増したと思います。

自分たちにできることの中で、自らごみ箱のデザインを考える、周知のための動画に出演して発信していくという発表がありました。解決策の実現に向けた積極的な姿勢が感じられました。

練馬区では「練馬区資源・ごみ分別アプリ」等によるプッシュ型広報やAI チャットボットの導入など、デジタルツールを活用した普及啓発に取り組み、ごみの発生抑制などを推進しています。

最近、各地で40度越えを記録するなど、災害級といわれる暑さが続いています。ごみの分別は、温暖化の原因となっている温室効果ガスといわれる二酸化炭素などの排出を抑制し、地球環境を守るうえで欠かせない行為です。そして、私たちが今すぐできることの一つです。そこに着目した皆さんがこ

の先も環境への取り組みに関心を持ち続け、自分たちにできることを小さいことからでも積極的に続けてほしいと思います。

最後に「未来に届け～みんなの笑顔守り隊～」グループです。防災について発表していただきました。

子どもやその保護者、妊婦さんに配慮した防災対策について提案してくれました。子育て世代や妊産婦の避難所環境の向上は安心して子育てができる社会にとってとても重要であり、素晴らしい視点だと思います。

まずは、区立小中学校を優先し、その後、避難生活のフォローとして児童館や区民館を開放するといった提案も具体性があり良かったと思います。

小中学生への周知啓発の強化について、区への提案だけでなく、生徒会活動としてクイズ形式などの工夫をし、区立小中学校全体に情報を伝えていくことを提案していただきました。自らの行動を提案している点も大変素晴らしいと思います。

避難所を追加する場合、それだけ受け入れや運営をする人手が必要になります。これまでの災害でも、発生後は区や関係者だけでは人手が足りない状況がありました。他県からの支援や被災の影響が少ない地域住民、ボランティアなどの協力が必要になるといった点も考えていただけるとよかったと思います。

それから防災のガイドブックは、そのサイズや内容だけでなく、作成した後にはどうすれば実際に、小中学生たちが手に取り見てもらうことができるかまで考えられるととっても良かったと思います。

皆さんは、今回の活動を通して、避難拠点というものがどうなっているのか、またどのような行動をとればいいのか学ぶことができたのではないかと思います。

発表の中でもガイドブックのお話がありましたが、練馬区では、この7月に「防災の手引」を発行しました。「みんなではじめる攻めの防災」と題し、地震への備えや様々なシーンでの対処法を、絵や図などを用いて分かりやすく紹介しています。紐を通す穴が空いていますので、どこかに吊り下げておき、すぐに確認できるように工夫されています。安否確認ボードも入っていますのでぜひ活用していただき、皆さんからも啓発していただきたいと思います。

今回、子ども議会を通して得られた知識や経験を活かして、皆さんの防災の意識をより高められることを期待しています。

グループごとの講評は以上です。4グループともに熱心な調査に基づいた素晴らしい提言発表でした。

ほとんどのテーマに共通していたのが、教育委員会や区が行っている取組が皆さんに十分に伝わっていないという課題があるということでした。

提言内容を今後の区の事業にできる限り反映できるよう、また、効果的な情報発信について引き続き考え、取り組んでいきたいと思っています。

この子ども議会の活動を通じて、皆さんがこれまで気づかなかった、練馬の良いところも発見できたのではないのでしょうか。今回の活動をきっかけに、皆さんの住む練馬区の様々な取り組みに興味を持って、深く考えてほしいと思います。

今回皆さんには、初対面の他校の生徒とグループを組み、ひとつの目標に向かって、協力して様々な活動を行い、提言発表をまとめあげ、多くの人の前で発表していただきました。他校の生徒同士、今では強い仲間意識が生まれているのではないのでしょうか。この絆をどうか大切にしてほしいと思っています。

最後に、議長を務めていただいた宮沢さん、副議長を務めていただいた鈴木さん、そして活動をされた全ての子ども議員の皆さんに心から感謝を申し上げます。

皆さん、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

副議長

これをもちまして、令和7年度練馬子ども議会を閉会します。

子ども議員の皆さん、また傍聴者の皆さん、長時間ご協力をありがとうございました。



令和7年度 練馬子ども議会の会議録作成にあたり、地方自治法第二百二十三条第2項の規定を準用し、署名する

練馬子ども議会 議長

宮沢 友里愛

練馬子ども議会 議員

玉川 愛琉

練馬子ども議会 議員

高橋 乃愛

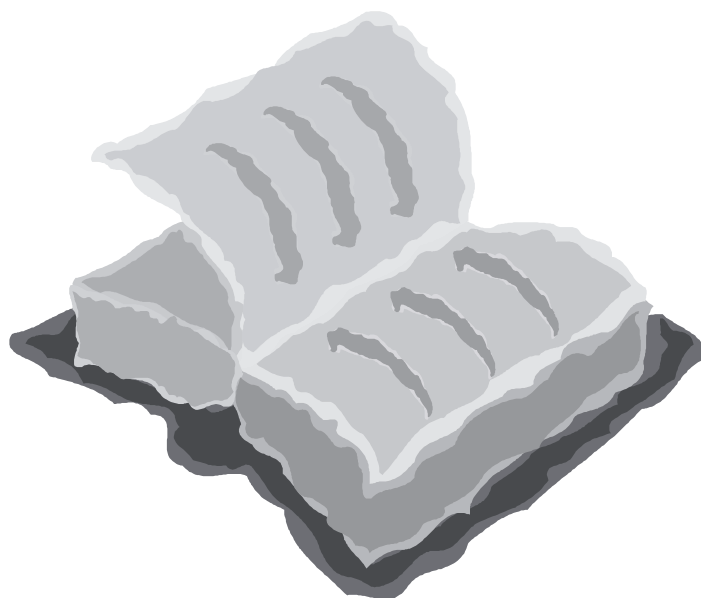
練馬子ども議会 議員

関口 陽南

練馬子ども議会 議員

新井田 涼音

資料



令和7年度練馬子ども議会の提案等に対する区の実施調査票

May everyone be smiling ～君のその笑顔をまもり隊～ グループ

テーマ：いじめの原因、理由、早期発見

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
<p>生徒が教師にいじめについて気軽に相談できる環境をつくるためには、生徒と教師の関係づくりが重要である。</p> <p>先生と生徒のトーク時間やレクリエーション時間を設けてはどうか。</p>	<p>区ではいじめ問題対策方針を毎年4月に各校に周知して、次のような取組を働きかけています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が教職員に相談できる教育相談体制を整える。 ・いじめの助長につながることへの気付きや、いじめ認知の意識を高く保持するように努める。 <p>各学校は、いじめ問題対策方針に基づき、児童生徒間、児童生徒と教職員間の信頼関係づくりに向けた取組をしています。また、各学校の好事例を他の学校に伝える機会を設けて、区全体の取組の向上も図っています。</p> <p style="text-align: right;">（教育指導課）</p>
<p>いじめを早期発見するため、いじめに関するアンケートは匿名で簡単に回答ができるよう、アンケート用紙を常時置いておく、インターネットによるアンケートを実施する等、工夫してほしい。</p>	<p>区では、年間3回の生活アンケートを通して、いじめの早期発見に努めています。</p> <p>学校によっては、タブレット端末を活用してアンケートを行ったり、毎月アンケートを行ったり、工夫するように促しています。</p> <p>いじめに関する相談については、生活アンケート以外にも、子ども相談アプリ「ねりまホッとアプリ+」や東京都の相談窓口など、タブレットを活用して多様な相談先に相談することができるようにしています。</p> <p>いただいた提案も含め、よりよいアンケートの実施方法について検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">（教育指導課）</p>

The charm of Nerima ～広がれ！練馬の魅力たち！～ グループ

テーマ：東京といえば練馬区と思ってもらうためには？

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
<p>小中学生が農業に関心を持ち、農業体験への参加を促すために小中学校で農業関連の授業を取り入れてみてはどうか。</p>	<p>区では、小学生を対象として農業者と連携した教育活動を行っています。社会科、生活科や総合的な学習の時間等で、地元の農業者の方を呼んでの講話や栽培指導を受けたり、子供たちが農園見学をしたりする等の農業体験を行っています。今後も農業者と連携した教育活動を実施していきます。</p> <p style="text-align: right;">（教育指導課）</p>
<p>練馬の農業や産業に関わるイベントを多くの人に知ってもらい、練馬の魅力に興味をもってもらいたい。</p> <p>イベントを周知する際にはカラフルなチラシや落ち着いた色合いのポスターなど、様々な年代に向けたデザインの掲示物を作成し多くの人の目に触れるように工夫してほしい。</p>	<p>イベント周知は、ターゲットとなる世代に合わせたデザインにすることが効果的であると考えます。しかしながら、PR等の広告費用に限りがあり、一つのイベントにおいて、世代毎にチラシ等の紙媒体を制作し分けることは難しいのが現状です。</p> <p>そのため、例えば幅広い世代の方が参加される「練馬まつり」等のイベントでは、限られた予算の中でも幅広い方々にも親しみやすく見やすいデザインとなるよう、ユニバーサルデザインの考え方も取り入れるなどの工夫を行っています。</p> <p>今後はいただいた提案も含め、様々な年代に合わせた発信方法とデザインを引き続き精査するほか、チラシだけでなくSNS（InstagramやX）を併用し、ターゲット層のリーチを増やす取り組みを実施します。</p> <p style="text-align: right;">（商工観光課）</p> <p>区では、全国都市農業フェスティバルをはじめ、ねりマルシェや収穫体験など、都市農業の魅力を体感できる機会を充実するための様々な取り組みやイベントを行っています。</p> <p>周知に当たっては、ねりま区報、区ホームページ、SNS、ポスターやチラシのほか、ねりまとれたてアプリなど様々な媒体を活用し、幅広い年代に情報が行き届くよう、取り組んでいます。</p> <p>引き続き、いただいた提案も含め、様々な年代の方が見やすい、理解しやすい媒体の作成に配慮しながら、効果的な周知に努めていきます。</p> <p style="text-align: right;">（都市農業課）</p>

子ども議員の意見・提案	区の実況状況など（予定も含む）
<p>農業・産業イベントの情報は区が主体となって発信するだけでなく、区内や区外の人にも発信してもらうことがより多くの人に広く伝えるためには重要である。</p> <p>インターネットなどで多くの人に情報発信をしてもらえるよう工夫してほしい。</p>	<p>区内外の方による SNS 発信は、イベント情報の周知に大きな影響力があると考えています。より多くの方に発信していただくためには、まずはイベント情報を知るきっかけづくりが重要です。</p> <p>ねりま観光センターのホームページでは、主催者が区内のイベントを掲載できる機能があります。主催者・参加者の双方向でイベントを発信できるようにしている他、当センターの SNS でもイベントの情報発信をしています。</p> <p>今後は、より効果的な発信方法について、いただいたご意見も参考にしながら調査・研究を進めていきます。 (商工観光課)</p>
	<p>区が実施する取り組みやイベントについては、より多くの方に情報が行き渡るよう、ねりま区報、区ホームページ、SNS、ポスターやチラシのほか、ねりまとれたてアプリなど様々な媒体を活用して、周知に取り組んでいます。</p> <p>その上で、区の発信した情報を区民の方などがさらに展開してもらえるような取り組みについては、他自治体の取り組みなども踏まえながら最適な手法を検討していきます。 (都市農業課)</p>

Green-saving, superheroes 「みどりを救う」 グループ

テーマ：練馬の環境を守る

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
<p>みどりに関する活動を多くの人に知ってもらうために、区の公式 SNS などでの動画投稿回数を増やすことを提案する。</p> <p>また、動画に中学生など若者に出てもらうなど、内容の工夫をしてほしい。</p>	<p>区では、練馬みどりの葉っぱい基金の公式XやInstagramなどで、みどりに関する活動の情報発信を行っています。</p> <p>提案いただいた動画による情報発信の充実を含め、より多くの方に練馬のみどりの魅力や活動を知っていただけるような取組を検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">（みどり推進課）</p>
<p>外国人などごみの分別の仕方が分からない人向けに、掲示物のデザインを直感的にわかりやすいものにしてほしい。（ピクトグラムや表、絵を多く使うなど）</p>	<p>区では、冊子「資源・ゴミの分け方と出し方」を配付し、分別方法について、周知をしています。その冊子では、イラストを用いて周知しています。また、集積所に看板を設置しており、看板にはピクトグラムを使用し、多くの方々に視覚的に認識してもらえるように努めています。</p> <p>いただいたご意見を参考に引き続き、区民に伝わりやすい周知に努めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">（清掃リサイクル課）</p>
<p>駅周辺のごみのポイ捨てを減らすために、掲示物のデザインを直感的にわかりやすいものにしてほしい。</p> <p>（ピクトグラムや表、絵を多く使うなど）</p>	<p>区では、条例で定められている歩行喫煙およびごみのポイ捨て禁止を周知するために、電柱にピクトグラムを使用した啓発看板等で周知を行っていますが、引き続き環境美化に努めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">（環境課）</p>

未来に届け～みんなの笑顔守り隊～ グループ
テーマ：防災～災害時の行動と避難拠点について～

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
<p>子どもやその保護者、妊婦さんに配慮した避難拠点として、児童館や区民館を開放するのはどうか。</p> <p>避難拠点として区立小中学校を開放した後、精神面のケアやフォローをするための拠点として開放していくことを提案する。</p>	<p>避難所は、まず区立小中学校を開設し、避難者数次第で近隣の区立施設を臨時避難所として開設します。避難所内では、避難者数の状況に応じて妊産婦などに配慮したレイアウトや居室利用を行うこととしています。また、健康相談など保健師の巡回指導等を実施します。</p> <p>避難所の近隣にある児童施設等とも連携し、妊産婦や乳幼児等の避難生活の支援を充実していきます。</p> <p style="text-align: right;">（危機管理課）</p>
<p>妊産婦への支援としてマタニティシールを作成して、配るのはいかがでしょうか。</p> <p>マタニティマークストラップを紛失してしまった、破損してしまった等、不測の事態が発生した際に対応できる準備が必要である。</p>	<p>区では、避難拠点内で周囲が配慮できるよう、持参いただいたマタニティストラップの着用をお願いしています。しかし、マタニティストラップを持参できない場合など不測の事態が発生した場合には対応が必要です。</p> <p>今後、要配慮者など支援が必要な方がまわりからも確認できるよう、ストラップや名札ケースの活用などの対応を検討します。</p> <p style="text-align: right;">（危機管理課）</p>
<p>小中学生など若い世代に対する周知啓発の強化として、SNS等でショートドラマ型の啓発動画を掲載するのはどうか。</p>	<p>区では、首都直下地震の被害想定や能登半島地震の災害事例等を踏まえ、令和7年度に「防災の手引き」等を改訂し、冊子を全戸配付しています。また、各種SNSにて防災学習コンテンツの作成や災害時の情報確認の注意喚起に取り組んでいます。</p> <p>幅広い世代に伝わるよう動画の活用についても充実していきます。</p> <p style="text-align: right;">（危機管理課）</p>

練馬子ども議会の過去の提案に対する区の実施

年度	子ども議員からの意見・提案	区の実施
平成 24 年度	練馬区の産業（伝統工芸、アニメ）について、もっと知ってもらうために PR 方法を工夫する。	平成 25 年度から新たにみどりバスの車内広告を利用した。 ※現在はバス車体にねり丸イラストをプリントしている。
平成 26 年度	図書館のホームページの工夫、SNS を用いた情報の発信、館内の椅子を増設する。	HP の青少年ページの拡充、YouTube 公式チャンネルを開設した。 貫井図書館での椅子を増設した。
平成 27 年度	中高生向けのイベントやワークショップの情報を掲載した広報誌を作成、学校を通じて配布する。	中学生向けの講座情報を A3 ポスター形式で区立中学校へ配布した。
平成 28 年度	SNS 等を使った選挙への啓発活動を充実する。	選挙情報にダイレクトにアクセスできるような工夫、ポスターコンクールの入賞作品を X（旧 Twitter）、HP、展示会等で紹介した。
平成 30 年度	児童館を中学生に PR する方法を工夫する。（配布プリントをカラーにすることや情報発信を工夫するなど）	各児童館のチラシをカラーにした。ホームページで事業紹介した。 フェイスブックや X（旧 Twitter）等を積極的に活用している。
令和 元年度	省エネに関する行動を習慣づけるための取組を工夫する。	蛇口や電気のスイッチ等の近くに貼れる「節電・節水シール」の作成・配布した。
令和 4 年度	中学生の防災意識を向上するために、中学生自ら避難訓練の企画等を実施する。	光が丘春の風小・光が丘第二中の避難拠点運営訓練に光が丘第二中の生徒が避難拠点ボランティアとして25名参加。当日、案内・誘導のほか、地域の方に備蓄や災害ダイヤルの説明等を行った。
	中学生のニーズに応え、楽しめる児童館にするために、児童館に関するチラシを中学校生徒に配布する。	児童館と中学校で調整し、新たに3校で全校生徒に「中高生向けおたより」の配布を開始した。
令和 5 年度	タブレットパソコンに接続するドングル（通信接続機器）はネットワーク接続が遅く壊れやすいため、学校で Wi-Fi 環境を作る。	令和 6 年度に中学校、7 年度には小学校の校内ネットワークを Wi-Fi 化し、校内の通信環境を整備することとした。
令和 6 年度	SNS 依存について考え学ぶ機会を充実させる。	小学校 5 学年での情報モラル講習会では SNS 依存についての講演等を行った。中学校 2 学年の講習会では、SNS 練馬区ルールを伝える際にスマホ依存について取り上げた。

※令和 2・3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

子ども議員へのアンケート集計結果

配布34 回収34

【子ども議会に参加した動機について】

(問1) 子ども議員になった理由を次の中から一つ選んでください。

先生に勧められて	20
面白そうだったから	13
その他	1

〔「その他」の内容〕

・政治に興味があったから。

【オリエンテーションについて】第1回学習会(6月28日)

(問2) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	23
よかった	11
どちらでもない	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

(問3) 良かったと思う点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	22
よい経験になった	22
他校の生徒と交流できた	31
区のことをわかった	11
わかりやすかった	6
その他	4

〔「その他」の内容〕

・グループの仲が良かった。

・友達が増えてとても嬉しかった。

(問4) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

部活などとの調整が大変だった	11
区政・区議会制度のことがよくわからなかった	7
選挙制度のことがよくわからなかった	6
提言発表のことがよくわからなかった	2
時間が足りなかった	1
その他	1

〔「その他」の内容〕

・意見があまり出なかった。

【地域調査について】第2回学習会（7月 22 日）

（問5） 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	23
良かった	9
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

（問6） 良かった点は何ですか。（複数回答あり）

充実していた	22
よい経験になった	21
提言発表の参考になった	20
その他	1

〔「その他」の内容〕

・やるべきことが早く終わった。

（問7） 良くなかった点は何ですか。（複数回答あり）

調査の時間が少なかった	7
別の場所を調査したかった	2
その他	2

〔「その他」の内容〕

・私たちの班が早く終わってしまい、他の班に迷惑じゃないか不安だった。

・筆箱を落としてしまって集中できなかった。

【提言発表原稿作成について】第3回学習会（7月 25 日）

（問8） 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	22
良かった	10
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

(問9) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できた	22
他の人の意見を聴けた	22
みんなで協力できた	29
十分に検討できた	18
グループで意見を上手くまとめることができた	22
区の現状を知ることができた	12
その他	1

〔「その他」の内容〕

・やるべきことが早く終わった。

(問10) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

話し合いの時間が足りなかった	6
意見が上手くまとまらなかった	4
区のことを知ることができなかった	2
その他	3

〔「その他」の内容〕

・部活との両立が大変だった。

(問11) その他、内容や運営について気が付いた点があればお書きください。

・会場の移動が多いので、少なくしてほしい。

【子ども議会開会宣言・意見交換会・第4回学習会】(8月1日)

(問12) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	23
良かった	9
どちらでもない	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

(問 13) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができた	26
区の現状が理解できた	17
よい経験になった	25
他のグループの考えが理解できた	18
意見交換の結果を提言に反映できた	20
その他	2

〔「その他」の内容〕

- ・区議会議員の椅子に座れて嬉しかった。
- ・質問をするのが楽しかった。

(問 14) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができなかった	2
区の現状が理解できなかった	0
他のグループの考えが理解できなかった	3
意見交換の結果を提言に反映できなかった	2
その他	4

〔「その他」の内容〕

- ・答えを素早く返すことができなかった。
- ・時間が足りず、質問したいことが言えなかった。

【子ども提言発表会について】(8月7日)

(問 15) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	28
良かった	5
どちらでもない	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

(問 16) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見が上手く発表できた	21
教育長から講評してもらえた	16
よい経験になった	31
発表会の雰囲気を楽しめた	22
議員の役割を理解できた	17

(問 17) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

形式的だった	6
上手く発表できなかった	3
もっと準備したかった	3
その他	1

〔「その他」の内容〕

- ・全体での礼やマイク回しなど、もっと打ち合わせしておくべきだった。

【練馬子ども議会を振り返って】

(問 18) 子ども議会の期間(5日間)について、どのように感じましたか。

長い	1
少し長い	3
ちょうど良い	12
少し短い	7
短い	11

「長い」「少し長い」を選んだ理由

- ・部活動との両立が難しかった。
- ・夏休みの5日間は中学生にとってかなり大きな時間であり、特に3年生は受験を控えているからもう少し短くても良いのではと思う。
- ・部活動や夏休みの宿題に影響がでたから。

「ちょうど良い」を選んだ理由

- ・5日間でみんなと交流し、意見を言い合ったりすることができたから。とても良い経験ができた。
- ・時間内にその時やるべきことを終わらせられたから。
- ・準備をする時間がちょうど良かったから。
- ・みんなと仲良くなれ、準備も十分にできたから。
- ・1日の時間としては長かったけど、これくらいの時間があつたから、意見をまとめられたと思う。

「短い」「少し短い」を選んだ理由

- ・もっと内容を深くし、発表を工夫することができたと感じたから。
- ・原稿作成の時間がもう少しあっても良いと感じた。
- ・1回1回が楽しくて、短く感じ、次回が楽しみだったから。
- ・仲間と話すことや、意見を言い合いながらの作業がとても楽しかったから。
- ・区について学んだり、他校の生徒と協力することはすごく貴重な経験だから。
- ・新しい出会いからすぐ仲良くなって楽しかったから。

(問 19) 全体を通して練馬子ども議会は皆さんの意見を十分に表明できる場となりましたか。

そう思う	25
まあそう思う	11
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
わからない	0

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・意見交換会で質問や回答を活発に行うことができた。
- ・練馬区について私たち子どもが考えたことなどをはっきりと表明することができたのでとても良かった。
- ・意見交換会で自分の意見を表明することができて、返答も自分なりの言葉でまとめることができた。
- ・上手く発表できたし、教育長に考えを届けられたから。
- ・自分たちで調査に行き、提言を考えることで、区のことについて詳しく考え、発表できたから。
- ・他の班の発表を聞いて新しい考えが生まれて、それを発表できたから。
- ・地域調査が比較的自由にできて準備がしっかりできたから。
- ・このような場が少ないから。
- ・自分の意見をハキハキと発表できたから。

(問 20) 今後、子ども議員の経験を活かせる(または、活かしたい)と思いますか。

そう思う	27
まあそう思う	6
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
わからない	1

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・なかなかできない経験だったし、区の取り組みを知ることができたから。
- ・全体で自分の意見を整理して話すことに活かせると思う。
- ・学校活動において、いろいろな人から意見を聞く場面があるから、それをまとめるときに活かせると思った。
- ・自分の意見を発表することは緊張するし、簡単ではないけれど、今後そのような場面があるかもしれないから。
- ・初対面の人と協力して物事を進めるという良い経験ができたから。
- ・コミュニケーションやプレゼンを上手くできた。社会で大いに役立つと思う。
- ・将来、練馬区にかかわる仕事に就いた時や今からでも、練馬区の課題を考える際にこの 5 日間を思い出して考えることができる。
- ・いじめの防止については、学校で毎年取り扱うので、生徒会に持ち帰りたいです。

(問 21) 最後に「練馬子ども議会」について何でも意見を書いてください。

- ・他校の生徒との交流ができて良かった。
- ・貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました！楽しかったです！
- ・他校の生徒の人たちと関わることはとても少ないので、こうして集まって意見を言ったり、過ごしたりしたことはとても良い経験になったし、楽しかったです！
- ・これからも子ども議会がつづいていくようにして欲しいです。
- ・様々な中学校の人たちと意見を交換する場面が中々ないと思っていたから、こういう機会があって楽しかった。
- ・もっとみんなと関わりたかったです。議会だからワイワイやるような感じではなかったけど、もっとたくさん話をしておけば良かったです。学習会などではみんな真剣に考えていてすごかったです。
- ・身近な問題について考え、発信する良い経験ができた。区のことについて知り、グループの人と協力して発表をしたことで、新しい視点で物事を見ることができ、楽しかった。
- ・他校と関わるのが少ないので、すごく良い取り組みだと思いました。参加できて嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・休憩時間をこまめにとってくれたり、職員の方々がものすごくフレンドリーでした。始めは少し面倒だったけど、子ども議会が楽しかったです。始めにアイスブレイクのゲームをするのはすごくいいと思います。
- ・本当に様々な方に協力していただき、新しい発見や新しい出会いがあったので始めから最後までとても楽しかったです。貴重な経験をすることができ、これからの学校生活に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。
- ・先生に勧められて参加したけれどすごく自分のためになったし、新しい友達に会えて嬉しかったです。結構自由にやらせてもらえて、とても楽しかったです。
- ・滅多にない他校の生徒との交流ができ楽しかった。
- ・とてもよい取り組みだと思いました。これからも続けてほしいです。(見に行きたいから)
- ・防災について学べるだけでなく、グループ内の他校の生徒と深く関わりをもつことができた。
- ・もっと政治的な活動もしたかった。でもとても良い経験になった。ありがとうございました！！
- ・自分の意見を発表できたり、初対面の人と意見を交換したり、普段の学校ではできないことができて良かった。
- ・来年もやりたいです。めっちゃ楽しかった。
- ・とても楽しく良い経験になりました。思っていたより堅苦しくなかったのが良かったです。様々な協力ありがとうございました。
- ・楽しかったです！いい経験になりました。

練馬子ども議会報告書

令和7年（2025年）12月 発行

編集発行 練馬区教育委員会事務局こども家庭部青少年課

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1

TEL 03-5984-1292（直通）

Mail : SEISHONEN03@city.nerima.tokyo.jp

ホームページ : <http://www.city.nerima.tokyo.jp>
